

漁業のまち^{いくじ}生地地区がもつ食文化、特有の佇まい、伝統文化等の資源を発掘・活用し、地域の漁村文化を体感できるまち歩きコースを作り、まち全体を生きたミュージアムとして構築することにより誘客を図り、地域の活性化を推進する。



平成21年度の主な取組

- ① まちの食文化を発掘・再評価し、観光客への提供体制を整え、「立ち食い・食べ歩きコース」を設定。
- ② 地域の埋もれた漁業資料(漁法、北洋漁業の歴史等)の調査収集、既存観光資源の点検により、更なる魅力向上策を検討し、「まち歩きコース」を設定。
- ③ 地域住民全員が「観光もてなしガイド」の一員となり、地域の案内体制を充実。

平成22年度以降の展開

地域の祭り(「恵比寿祭り」、「さかな祭り」)に合わせた社会実験の実施や、ミュージアム拠点施設の運用実験の実施、ボランティア・地域住民を対象とした学習会の継続実施等により、ミュージアムタウンとしてのまちづくりを展開し、交流人口の増加と地域産業の活性化を図る。

携帯サイトとテレビ放送の連動による効果的な情報発信と富山市中心市街地活性化プロジェクト (富山県富山市)

富山市中心市街地の店舗情報や交通情報、エコ情報等、様々な情報・ツールとリンクさせた公共性の高い便利な携帯サイトを開設する。これとテレビの情報番組コーナーを連動させ、メディアの相乗効果により「まちなか」の魅力を広める。



毎週1回の生中継によるTV放送

平成21年度の主な取組

- ① 中心市街地の有効な情報発信ツールとなる携帯サイトを開発。
- ② 毎週1回、地元テレビの情報番組で中心市街地からの生中継と携帯サイトのPR。
- ③ より効果の高い情報発信のあり方を研究し、活性化に有効な情報発信のエキスパートとなる人材を育成。
- ④ 携帯サイトの店舗情報にリンクするQRコード付きガイドマップの作成。

平成22年度以降の展開

携帯サイトの運営やテレビ放送に携わる体制をつくり、事業を通して次世代を担うエキスパートとなる若い人材を育成する。さらに、携帯サイトに双方向性を持たせ、「まちなか」と消費者を結ぶコミュニケーションツールとして発展させ、持続的な事業への展開と中心市街地の活性化を図る。

市民主体の各種事業を複合する「いち」を活用した賑わい創出プロジェクト

しんみなと
(富山県射水市新湊地域)

市民が主体の「いち」を開催することにより、内川地域を市民の共有の場として再生し地域経済の活性化を図る。また、地域資源を活用した街歩きツアーによる交流人口増加や内川の環境美化活動による自然再生等の相乗効果により、賑わいの創出を図る。



たいち、大いち等の開催



平成21年度の主な取組

- ① 内川周辺に新設された「川の駅新湊」で「たいち」、「内川大いち」を開催。
- ② 内川周辺の歴史や文化を調査し、歴史をテーマにしたコースガイドの作成や、街あるきツアーを開催。
- ③ 内川の環境美化活動と水質調査の実施。

平成22年度以降の展開

「いち」を事業として経営を安定させるとともに規模を拡大する。また、地域素材を生かした商品開発や、歴史をテーマとした街歩きルートの開発、内川の環境美化活動等、各種活動に参画した人々にポイントを提供し、地域通貨に変換できる仕組みを検討し、交流人口増加と地域経済活性化を図る。

山中温泉 伝承音楽と伝統工芸による元気再生 ～山中節(やまなかぶし)と

山中漆器(やまなかしっき)の第二創生～

(石川県加賀市(山中温泉地区))

温泉観光と伝統工芸に支えられてきた山中温泉で、地域伝承音楽『山中節』のブランド化や伝統産業『山中漆器』の新たな販路開拓など、2つの地域資源を融合しその魅力を発信することで、観光客の増加による温泉街の活性化を図る。



山中節道中流し

山中塗楽器製作



平成21年度の主な取組

- ① 地域の伝承音楽である「山中節道中流し」を活用し、住民参加の民謡祭を事業化することで、オフシーズン時の誘客を促進し、温泉街の活性化を図る。
- ② 伝統産業である山中漆器の技術を楽器製作に取り入れることで、販路の拡大を図るとともに、その製造過程に消費者がふれる機会を設けるなど、山中漆器の魅力・価値を広める活動を実施。

平成22年度以降の展開

民謡祭を継続して実施していくため、伝承音楽の担い手の育成や保存・活用に取り組む協議会を設立するとともに、日本海民謡サミット(仮称)を山中温泉で開催し、更なる誘客を図る。また、大都市を中心に販売代理店を広げ、企画展を実施するなど、山中塗楽器の販売を促進する。

能登一都市連携による中小規模農業持続化プロジェクト

（石川県輪島市、七尾市、珠洲市（能登地域））

能登地区の中小規模農業者の経営安定化を目指し、首都圏への販路拡大に取り組む。また、付加価値の高い能登食材（加賀野菜、米）のリピーター確保や受発注窓口の一元化を図るほか、食材の良さを実感してもらうため、需要者向けの産地紹介ツアーを実施。



需用者と生産者の交流



源助大根と金時草
（加賀野菜）

平成21年度の主な取組

- ① 首都圏の需要者が求める能登の食材に関する情報を調査し、メールマガジンを活用して必要な情報を定期的に配信。
- ② 産地紹介ツアーを企画し、首都圏の需要者と生産者が直接交流する機会を設けることで、販路を拡大。
- ③ 生産農家から需要者への農産物の共同配送や携帯電話を活用した受発注システムの確立に向け、モデル事業を実施。

平成22年度以降の展開

生産者と需要者をつなぐ窓口となるWebサイトの開発や、携帯電話を活用した受発注システムの本格稼働により、販売を促進するほか、首都圏で石川県産食材ファンクラブ（仮称）を設立し、能登食材のリピーターを確保するなど、更なる販路の拡大に取り組む。

能登・七尾留学による地域縁パワーメンター育成

～地域×若者×チャレンジ＝地方の元気～（石川県七尾市・中能登町地区（七尾鹿島））

全国の大学から七尾合宿の誘致を拡大し、学生の地域活動への参加と住民との交流、地元企業等のインターンを受け入れ体制「七尾留学」を構築することにより、若者の新たなビジネスへのチャレンジを促進し雇用の創出を実現する。



スポーツ系に加え、音楽系、芸術系の合宿やゼミ合宿誘致を強化

地域の祭り等への学生の参加



平成21年度の主な取組

- ① 大学の誘致数を増やし、合宿の多い8～9月を中心に、地域の祭やイベントに学生が参加する交流事業を実施。
- ② 豊富な地域資源を活用し、大学のカリキュラムやゼミと連動した、七尾での長期教育プログラムを構築。
- ③ 七尾をフィールドとした魅力ある留学プログラムを設計し、学生と地元企業やまちづくり団体との交流を後押しできる人材を育成。

平成22年度以降の展開

七尾合宿と地域活動を結びつけ、継続してまちづくりに学生パワーを活用できる仕組みを構築するとともに、七尾留学プログラムの事業化に向け、学生と企業活動等のコーディネートに精通した人材（地域縁パワーメンター）の育成を本格化し、学生の受入体制の確立を目指す。

越前お市のポップカルチャー創造エリア

(福井県大野市)

地域の資源と情報発信ツールであるネットを活用して、ポップカルチャーアーティストに創作活動の場を提供するとともに、地域資源と滞在アーティストの感性を取り入れた商品開発・発信をすることで、ポップカルチャー創造エリアを形成し、雇用の拡大と定住者の増大を図る。

お寺ステージとして活用できる地域資源(イメージ)



情報発信の拠点として活用できる地域資源



平成21年度の主な取組

- ① アーティストの活動環境などのニーズ調査を実施し、ニーズにマッチする地域の建物をリストアップ。
- ② 滞在アーティストの交流場となるカフェ準備と連携し、地元食材使用の飲食メニュー開発、地元間伐材使用の店舗家具のデザイン公募。
- ③ アーティストを招聘して取組を検証するとともに、住民への啓蒙イベントの開催、インターネットTV局開局準備。

平成22年度以降の展開

定住型アーティストの増加、商店街での実験ショップの立ち上げ促進、地元資源とアーティストのコラボレーション商品の開発・販売、集客イベントへの都会からの誘客など、地域と商店街の活性化と定住者の増加を図る。

越前お市のバザール発着ほんもののふくい旅プロジェクト

(福井県福井市)

中心市街地に市民参画による「越前お市のバザール」を継続的に開設し、市民交流の場として定着させるとともに、新たな着地型観光商品の開発と情報発信を行うことで、人々が集うハブ拠点として中心市街地の活性化を目指す。



駅前商店街での賑わいの様子

平成21年度の主な取組

- ① 中心市街地に市民参画の「越前お市のバザール」を開設し、まちなか賑わいの効果を実証。市民及び市場来訪者向けにアテンド館を開設し、市場コンシェルジュ機能の実地検証。
- ② 着地型の「越前お市のバザール発着あなたのふくい旅」コースを提供し、市場アテンド館のおもてなしの旅コンシェルジュ機能を実地検証。
- ③ 上記取組の情報発信やICT等を活用した実証実験。

平成22年度以降の展開

「越前お市のバザール」を定期開設するとともに、広域連携先との共同事業化、パイロット的取組の実施、広域連携・ストーリー性のある着地型観光メニューの整備などにより、福井市中心部におけるハブ機能を高め、交流人口の拡大、中心市街地の活性化を図る。

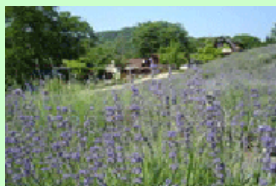
「安曇野池田町ワイン＆ハーブ・アカデミー」による地域力の向上

(長野県池田町)

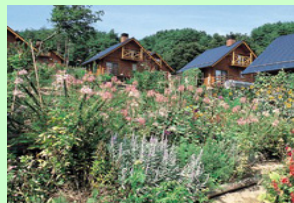
耕作放棄された桑園を利用して、醸造用ブドウ及びハーブの生産者養成のために、「安曇野池田町ワイン＆ハーブ・アカデミー」を立ち上げ、新規・Uターン就農者や二地域居住者を迎え入れ、農業産出額、観光消費額、定住人口の増加を目指す。



ブドウ収穫の研修



ハーブ栽培



交流施設と市民農園

平成21年度の主な取組

- ① 「安曇野池田町ワイン＆ハーブ・アカデミー」の開講、ホームページの開設。
- ② 「ワインツーリズム・イン・長野」の実施。
- ③ 1万人アンケートによる都市農村交流希望者の発掘、呼び込み。
- ④ 都市農村交流希望者への市民農園利用案内、二地域居住ガイドの実施。

平成22年度以降の展開

アカデミー修了者等から醸造用ブドウ栽培指導者を養成するほか、海外のワイン生産地との「姉妹都市」提携などを通じ、「ワイン＆ハーブ」の産地として確立し、農業生産額、観光収入の倍増、農業特産品加工産業の育成さらには定住人口の増加を図る。

木島平“村格”形成による農村・都市共生プロジェクト

～昔話の里からの農村文化・環境の再生～

(長野県木島平村)

「学」の知恵と「若者」の力を取り入れ、人材育成の場として設立する“農村文化・環境再生塾”にて自然、景観、文化、歴史、地場産業の学びと実践を図り、人材育成を通じて地域力・集落力・住民力の向上を図り、低迷する農業と観光産業の再生を目指す。

自然・農村景観
(ニューツーリズム)



農村文化・歴史
(伝承と普及・むらづくり)



農村文化・環境再生塾



生産される農産物(食と農のビジネス)

平成21年度の主な取組

- ① 「農村文化・環境再生塾」プレ講座実施。
- ② 官学連携による新商品(「農林高校トマトケチャップ」)と、活用レシピの開発・発表会。
- ③ 農林高校生と太鼓チームによるケチャップPRイベント。
- ④ 官学民連携によるトマトケチャップに続く新たな特産品の研究。
- ⑤ 「農山村交流フォーラム」の開催及び都市での「木島平農村交流サロン」の開設。

平成22年度以降の展開

地域内発型の新たなビジネスの創出を行うとともに、中山間集落の活性化、農村・都市交流の装置づくりを実践する。これにより、「多様な主体の力を結集した農村文化・環境の再生と地域ブランド化＝村格の形成」を構築する。

リゾート地から、通う地・住まう地へそばを核とした定住・観光促進パートナーシップ事業 (長野県茅野市)

高原リゾート地の新たなスタイルとして、「そば」をテーマに観光客や別荘住民と地域住民が、単に「来訪者」「受入者」の関係を超え、共に住まう仲間として新たなコミュニティを形成させ、観光と定住促進を図る。



そば講座を通じた交流

平成21年度の主な取組

- ① 別荘管理者及び別荘所有者と地元住民との交流可能性調査を実施。
- ② 「そば」をテーマにした企画講座を開催。
- ③ 「たてしなサポート村民」(仮称)制度をつくり、参加者の登録を実施。
- ④ 「そば」の生産体制の現状把握と栽培者の募集、「そば」マップの作成。

平成22年度以降の展開

そばを活用した新しい「食」の研究を進めるとともに、高原リゾート地への定住受け入れのための制度等を策定し、民間別荘管理会社と観光産業の連携を図り、新たなコミュニティを確立させるとともに、滞在型観光の充実と定住促進を図る。

“イヤシロチ佐久型”健康ビジネスの構築

～21世紀型「生活改善運動」の実践を通じて日本一の自然療法地を目指す～ (長野県佐久市)

佐久特有のイヤシロチ(多様な動植物が共生し癒される地)と長寿地域としての知名度を活かし、多様な業種が連携して21世紀型「生活改善運動」を展開し、日本版クナイプ療法(自然療法)の整備を目指す。



地域に根付いた生活改善運動



地形療法(森林療法)を取り入れた取り組み

平成21年度の主な取組

- ① 健康増進のあり方の指針を策定するとともに、地域資源・健康サービスの素材情報を収集し、自然療法型モデル商品の方向性を探るため、首都圏にて消費者受容性把握調査を実施。
- ② 医療等健康づくりの現場に対しヒアリング調査を実施し、健康商品に関するニーズを把握。
- ③ 自然療法型モニターツアーの実施。

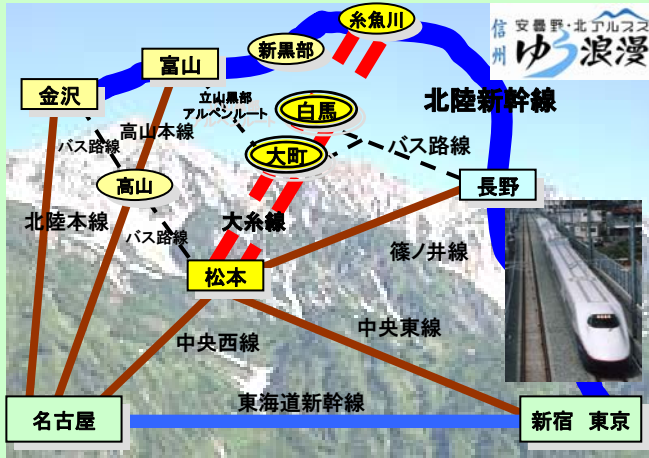
平成22年度以降の展開

自然療法型ツーリズムの本格稼働・健康医療介護福祉分野製品の本格的プロモーション展開等を通じて、「イヤシロチ佐久型健康ビジネスモデル」を全国に先駆けて構築して、観光集客事業の活性化、地元企業の活性化及び新たな雇用機会の創出を図る。

“北陸新幹線の延伸”を活用した地域活性化“大糸線ゆう浪漫”プロジェクト

（長野県安曇野市、大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村）

北陸新幹線の延伸を契機に、大糸線沿線地域を核とした一大周遊型観光エリアが形成される。この機会を活かし、地域の核となる交通システム（鉄路）を維持・発展させるとともに、地域住民を巻き込んだ観光地づくりを目指す。



平成21年度の主な取組

- ① 地域の合意形成に向けたシンポジウム開催と着地型観光メニューの開発・PR。
- ② 北アルプス山麓ブランド・安曇野ブランドとの連携による、駅弁など食メニューの開発と試食会等の開催。
- ③ 住民主体によるおもてなしイベントの実施、担い手づくりのための研修会等の開催。
- ④ 地域産材を活用したおもてなしグッズの開発。

平成22年度以降の展開

糸魚川市や松本市にまで連携を広げ、おもてなしグッズの製作や駅弁等食メニューの販売を進める一方、地域住民によるおもてなしの向上や地域交通システムの利便性向上を実施して、広域連携を図った観光地づくりの形成を目指す。

環境のもりと木づかいプロジェクト：環境経済で地域木材産業を再生

（長野県飯田市および周辺町村）

低迷する木材産業に、「環境」という新たな価値付けをした上で、生産から消費までの安定した流通システムを確立させ、新たな「環境経済」の下に再生を図るとともに、木材の育成・利用を高めることで低炭素社会の実現を目指す。



安定供給

地域材の利活用

平成21年度の主な取組

- ① 環境のもりマップの作成と森の里親制度の設計と募集を実施。また、木材取引の長期安定供給の成功例を調査。
- ② 地域内外の木工者等から地域材を利用した商品例を出展してもらい、地域の工務店や住宅メーカーの協力を得て、展示会を実施。
- ③ ペレットストーブ等の需給情報を収集し、普及を検討するほか、端材の利活用を探り、端材商品を展示会に出展する。

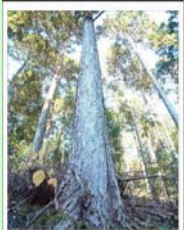
平成22年度以降の展開

環境のもりエリアを拡大させるとともに、地域材商品のマーケティング強化と端材エネルギーの利活用を普及させ、木材の長期相対（あいたい）取引を本格開始することで、木材産業の再生と二酸化炭素排出量の削減を図る。

加子母の複層林を育てる「環境共生・総ひのき住宅」550万円プロジェクト

(岐阜県中津川市加子母)

加子母(かしも)産のひのきを利用し、優良住宅取得支援制度の適用が可能な高性能住宅を、本体販売価格550万円で提供できるような生産～販売のシステムを構築し、事業化する。これにより、加子母の林業を再度活性化させ、同地域の元気再生を図る。



首都圏での550万円住宅
(イメージ)

高品質な加子母ひのき

平成21年度の主な取組

- ① 木材特殊加工技術を確立し、これまで住宅に用いることができなかった間伐B・C級材を住宅材料として商品化。
- ② 「550万円住宅(NEWハウス55)」のブランド化、商品開発、販路開拓を実施。
- ③ 地元民の理解促進と人材育成を実施するとともに、NEWハウス55購入者を対象にモニターツアーにより、環境面での林業の役割や取組の重要性についての学習を実施。

平成22年度以降の展開

NEWハウス55を取り扱う建築会社・工務店を増加させ、本格的な事業拡大を図る。他方、有効活用されていなかったひのきの枝葉を有効活用できる加工技術の開発により、食器、家具等の分野で事業開発を図る。

天空の里と地底1,000mが発信する「元気！神岡」プロジェクト

(岐阜県飛騨市神岡町)

地下1,000mにある神岡鉱山跡地を活用した、地底農業・発酵品製造業・天然水事業や、標高1,000mにある山之村地区の農畜産品事業など、地域資源を活かした事業の開発により地域の活性化を図る。



神岡鉱山入口



山之上地区の牧場



神岡鉱山内部

平成21年度の主な取組

- ① 山之村地区の特産品や体験メニューを開発し、また販路を開拓して、神岡ブランドを確立。
- ② 北陸地域との広域連携による集客向上を目指し、特産品フェア、海と山のコラボレーションメニューを開発。
- ③ 地底空間での農産物栽培の実証実験、発酵品開発の推進と、天然水商品化の検討。
- ④ 地域が一体となってプロジェクトを推進できるよう、取組①～③の広報活動を展開。

平成22年度以降の展開

事業本格展開のための基盤となる「神岡町株式会社(仮称)」を関係機関との連携により設立する。平成21年度の取り組みに加え、特産品の開發生産に係る加工場建設や、荒廃遊休農地活用による生産作物の増加などを検討していく。

森林自然資源活用による健康増進プログラム開発モデル事業（静岡県富士宮市）

富士山西麓にある自然資源の新しい活用のあり方として、心身の健康増進プログラムを開発し、地域住民の雇用創出、予防医療・健康維持・増進を促進するとともに、来訪者に対するヘルスプログラムなど、幅広いメニューを整備する。



フィールドイメージ
(森林内トレイル、田貫湖畔)



医療機関との連携

平成21年度の主な取組

- ① 健康増進に活用するためのウォーキングコースの設定
- ② ①で開発したコースをベースに、食農分野への波及を視野に入れた複合的・総合的なプログラムの開発
- ③ 地域の医療機関等との連携体制構築に向けた検討

平成22年度以降の展開

プログラムの普及促進と受入基盤の強化に力点を置き、地域内外に向けた情報発信を展開する。また、他産業との連携により、地域的な波及効果の増大を図る。同時に、生理実験による県内初の「森林セラピー基地」の認定を目指す。

「三島街中再生楽校」と「箱根西麓再生百姓楽校」との有機的連携を図るグリーン・ジョブ（環境まちづくり）による水と緑の地域資源活用への変革モデル構築事業（静岡県三島市）

都市部と農村部において、全国のシニアと若者を対象とした人材育成プログラムを開発し人々の往来により活気あふれる地域を創造する。また、双方の地域資源の有機的連携を図り、市民ビジネスと雇用創出による地域活性化を実現する。



グリーン・ジョブ研修プログラムの開発

「箱根西麓再生百姓楽校」による放置竹林再生活動



「三島街中再生楽校」による三島門前屋台村の実施



平成21年度の主な取組

- ① 「三島街中再生楽校」と「箱根西麓再生百姓楽校」での体験型学習を通じた、シニア・若者によるグリーン・ジョブ研修プログラムの開発。
- ② 箱根西麓の未利用資源を活用した「箱根西麓再生百姓楽校」の開校により、「農村カフェ」など農村地域での交流・活動拠点の整備。
- ③ 三島の街中の地域資源を活用した「三島街中再生楽校」の開校により、環境再生、環境保全活動を実践。

平成22年度以降の展開

平成21年度に創り上げたグリーン・ジョブ研修プログラムをベースとし、より具体的、現実的な各種事業に取り組む。特に市街地での「三島街中カフェ」や箱根西麓での「農村カフェ」について本格的な事業展開に移行し、自立できるビジネスモデルの確立を図り、持続可能な都市・農村地域の連携による、相互の地域資源活用を一層促進する。

～ホーム・メイド・タウン共に歩むまち三川～地域活動への自発的参加を促す 「地域の元気マイレージ」の実施 (静岡県袋井市三川地区)

地域住民が積極的に地域活動に参加する意欲を啓発する体制を構築するとともに、地域特有の農村資源のPRとブランド化や子供たちへの農村文化の継承を行い、地域コミュニティの再生を図る。



お盆の伝統子供念仏
「かさんぼこ(傘鉾)」

地域の産品



平成21年度の主な取組

- ① 農協の空き倉庫を活用し、地域主体で人々が自然に集まる「三川市場」として再生・運営。
- ② 地域固有の念仏の伝唱「かさんぼこ」を次世代へ継承。
- ③ 地域の風習や地場産品をセットにした「三川ふるさと便」を開発し、対外的にPR。
- ④ 地域活動への参加を促すため、「地域の元気マイレージ」制度を創設。

平成22年度以降の展開

「三川市場」を「里の駅」化し、外部の来訪者に対しても地元産品や温もりのあるコミュニティといった地域の魅力を発信できる拠点として整備する。また、「地域の元気マイレージ」の全市展開を検討するとともに、地域の自立的な運営が行うよう体制を整備する。

流域コミュニケーション放送局による上下流交流活性化プロジェクト (木曽川流域(長野県木祖村、岐阜県中津川市他、名古屋市他))

インターネット放送局を開設し、木曽川流域の交流活性化のツールとすることで、上流の農山村物産品の販売促進、上流における森林環境保全、良好な水環境の確保等の課題に対し、上流・中流・下流の各地域の交流を通じ取り組む。



木曽川流域の交流活性化



インターネットフォーラムの開催



上流の物産品の販売促進

平成21年度の主な取組

- ① 市民が運営するインターネット放送局「流域コミュニケーション放送局(RCBC)」を開設し、市民記者による地域資源の取材・配信を実施。
- ② 木曽川の上流域・中流域・下流域をインターネットで結んで意見交換「流域塾」を開催し、木曽川流域での課題を共有し、RCBCで配信。
- ③ 上流農山村の物産展「流域メッセ」を開催し、RCBCを利用して販売促進。

平成22年度以降の展開

流域コミュニケーション放送局の継続に向けて、流域塾における目玉番組育成や、地元ケーブルテレビなどと番組連携を図る。また、上流農山村の物産品の販売に加え、流域内の生産地と消費地が共同開発した商品なども販売し、流域メッセの充実を図る。

農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会の共生プロジェクト

(愛知県豊橋市を中心とした周辺市町)

地域社会において環境を整えることで、ブラジル人青少年による農繁期の農家への農作業手伝いを受け入れるとともに、ブラジル人青少年と地域住民との交流を進めることで、雇用問題の解決と地域コミュニティの形成を図る。



「農家お助け隊」の設立



コミュニティカフェの開設



ブラジル人青少年の就労支援教育

平成21年度の主な取組

- ① 農繁期の農家に、ブラジル人青少年を農作業の手伝いとして派遣。
- ② コミュニティカフェを開設し、地域住民を巻き込んだブラジル人青少年との交流を促進。
- ③ ブラジル人青少年の就労支援教育を通じ、日本人と一緒に働けるメンタリティを養成。
- ④ ブラジル人青少年による営農基盤づくり。

平成22年度以降の展開

ブラジル人青少年の新しい働き方として、農業分野での雇用先創出を図る。また、地域に居住するブラジル人と地域住民とを仲立ちする人材を育成することで、ブラジル人と地域住民とが共生できる環境づくりを進める。

廃校と遊休地を利用した水源の里のルネサンス

(愛知県新城市)

高齢化が進み遊休農地が増加している水源地において、地域自然・文化遺産を活かした廃校での体験・教育プログラム活動と、遊休農地を活用して地域オリジナルブランド農産物を生産することにより、地域の雇用創出と若者の定着を図る。



地域の豊かな自然・文化遺産



廃校の活用



地域オリジナルブランドの開発

平成21年度の主な取組

- ① 旧七郷一色小学校を利用した食農・環境教育、農業体験プログラムの作成、試行。
- ② 付加価値農産物(酒米・マコモタケ・ベリー類・ルバーブ等)を作付、検証。
- ③ 地域オリジナルブランド農産加工品の開発。
- ④ 地域の豊かな自然・文化遺産の精査と観光コースの設定。地域住民に対する啓蒙活動。

平成22年度以降の展開

豊橋技術科学大学、新城市、七郷一色地区が参加したNPO法人「七郷一色地区ルネサンス」を設立し、これを主体として、食農・環境教育・農業体験プログラムの本格活動と、地域オリジナルブランド農産物の本格生産・販売に向け、環境整備を行う。

中山間地域の活性化との補完連携による郊外団地再生マネジメント構築事業 (愛知県名古屋市・豊田市)

急速に高齢化が進んでいる大都市郊外の住宅団地と、高齢過疎地域という同じ問題を抱えている中山間地域が、福祉型から生活創造型エリアマネジメントへの転換や、健康福祉ツアー等の交流メニュー開発によって相互の地域再生を図る。



郊外団地

介護サービス付宿泊交流

人間ドック付メディカルツアー

生活体験(農業・林業)



相互
交流



中山間地域

平成21年度の主な取組

- ① 生活創造型エリアマネジメントの実現に向け、担い手の確保及び組織づくり。
- ② 郊外団地と中山間地域との相互交流メニューの開発。
- ③ 高齢者の集合住宅への集約化及び高齢者が持つ戸建住宅を若い世帯に賃貸する仕組みの開発。

平成22年度以降の展開

中山間地域との相互交流の定着化とともに、訪問先と交流メニューの多様化を確保するため、他地域との連携選択肢を拡大する。また、戸建住宅の住み替え支援を生活創造型エリアマネジメント事業の一つとして位置づけ、住み替え実績の積み上げを図る。

COP10で世界へ発信！生物多様性「NAGOYAしみんプロジェクト」

(愛知県名古屋市)

生物多様性が体験できる場を創出する活動に、市民、地域団体、NPO、企業、行政など社会を構成する全ての「しみん」が参加して取り組むことによって、コミュニティの再生や地域力の向上を図り、「人と生きものが共生するまち」を実現する。



都市部での収穫体験



幼稚園内のビオトープ

平成21年度の主な取組

- ① 市民参加のワークショップを実施し、「生物多様性公園ガイドライン」を作成。
- ② 個人の庭や会社・学校などの身近な場所で「おうちビオトープガーデン」プロジェクトを実施。
- ③ 公園などで、住民主体で地域の伝統野菜や薬草の栽培・収穫体験する「学区でおやちやい」プロジェクトを実施。

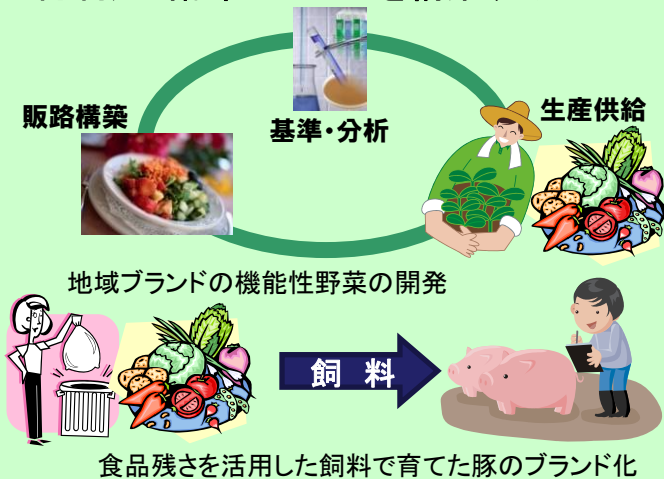
平成22年度以降の展開

「しみん」協働の「生物多様性公園づくり」と「おうちビオトープガーデン」「学区でおやちやい」の両プロジェクトを、全市域内に広げることで「緑のネットワーク」が形成をされ、温暖化対策と生物多様性の両方に配慮した「安心・安全」なまちづくりを実現する。

真の農業大国へ！『穂の国から近未来農業発信』

(愛知県東三河地区)

農産物の生産地であるとともに消費地である愛知県東三河地域で、科学的根拠に基づく機能性野菜の開発によるブランドづくりと活用可能な資源(食品残さ、規格外農残物等)の再利用・循環システムを構築することにより、新たな農業のモデルを構築する。



平成21年度の主な取組

- ① 農業所得と後継者の確保を図るため、科学的根拠のある機能性野菜を開発して地域ブランド化。
- ② 食品工場、スーパー等から発生する食品残さを安定的・効率的に収集・貯蔵し、飼料化する仕組みの構築。

平成22年度以降の展開

開発した機能性野菜の地元生産グループを組織して供給体制を構築する一方、食品残さを活用した飼料で育てた豚のブランド化を図り、東三河地域「穂の国」を「真の農業大国」とする。

～伊勢地域の歴史・文化資源を紡ぐ～ 伊勢の創造事業

(三重県伊勢市)

江戸時代に流行したおかげ参りの施行のしくみを現代版システムとして構築するとともに、地域資源を活用した魅力創造事業と誘客事業を複合的に実施することにより、まちなかへの観光客の誘導・滞留を図り、伊勢の再生を目指す。



現代版おかげ参り
施行システム

平成21年度の主な取組

- ① 観光客のまちなかでの滞留を図るため、木札持参にて色々なサービスが受けられる「現代版おかげ参り施行システム」を構築。
- ② 「外宮周辺(まちなか)魅力創出事業」
土日朝市の開催、観光案内人を活用したまち歩きツアー等を複合的に実施し、まちなか観光の魅力を向上。
- ③ 「外宮誘客事業」
内宮ー外宮間の路面バスをラッピングし、視認性を高めることで観光客をまちなかに誘導。

土日朝市の開催



平成22年度以降の展開

平成23年度のまちなかハード事業完成との相乗効果を視野に入れ、「外宮さん＝食の神様」として食に関する事業展開を行うなど、外宮周辺魅力創出事業をより複合的に推進するとともに、エージェントや宿泊施設と連携し、施行システムをPRすることで、参拝客及び滞在時間の増加を目指す。

「エコブランド・あかね材」メカニズム構築によりめざす環境まちづくり

(三重県松阪市(取組は三重県全体に展開する))

実用上は問題ないが、視覚上の問題のみで市場で適正に流通していない木材を「あかね材」と名付け、安全性とアウトレット感覚を広く消費者にPRし、本質的で持続的なニーズを興すことにより、地域の木材産業の再生と環境保全への貢献を目指す。



屋根部分に「あかね材」を使用



「あかね学級」の開校



実験的施行施設内覧会

平成21年度の主な取組

- ① 「あかね材」の知名度向上ため、親子を対象とした環境体験教育の場「あかね学級」の企画・開校。
- ② 信頼性のある供給・流通体制の構築のためあかね材の品質管理システムの確立。
- ③ 製材所等への実験的供給の実施。
- ④ あかね材を使用した実験的施行施設の内覧会の開催。

平成22年度以降の展開

エコブランド・あかね材品質管理機関「(仮称)あかね材認証機構」を設立するとともに、あかね材の環境への貢献度の研究を行い、あかね材の市場での適正な流通の確保と、環境貢献材としてのブランド確立を目指す。